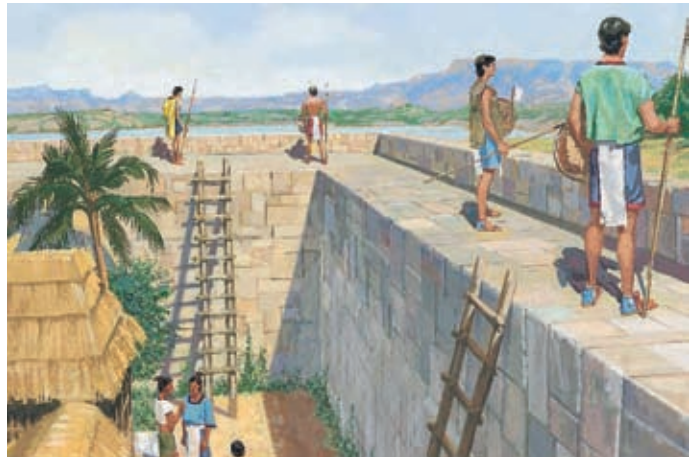


ヒラマンと2,000人の わかいへいしたち

だい34しょう



アンモン^{かみ}のたみは、にどとせんそうをしないことを神とやくそくしていました。アンモン^{かみ}のたみはニーファイ人^{じん}の近く^{ちか}にすんで、ニーファイ人^{じん}にまもってもらっていました。(アルマ53：10-12)



けれども、アンモン^{かみ}のたみのてきがニーファイ人^{じん}をおそうの^みを見ると、アンモン^{かみ}のたみはやくそくをやぶっても、ニーファイ人^{じん}といっしょにたたかいたい^{おも}と思いました。(アルマ53：13)



ヒラマンやニーファイ人^{じん}のしどうしゃ^{じん}たちは、アンモン^{かみ}のたみに神^{かみ}とのやくそくをやぶらせたくありませんでした。(アルマ53：14-15)



アンモン^{かみ}のたみのわかいむすこ^{じん}たちはこのやくそくをしていなかった^{じん}ので、じゆう^{じん}のためにたたかっているニーファイ人^{じん}のぐんたい^{じん}をたすけたい^{おも}と思いました。(アルマ53：16-17)



この2,000人^{じん}のわか^{じん}のち^{じん}たちは、^{くに}をまもるためにたたかうときめ、ヒラマンにしきかん^{じん}になってくれるようにたのみ^{じん}ました。(アルマ53：18-19)



このわかものたちは、ゆうかんで、強く、たくましいばかりでなく、正直で、しんらいできる、神のいましめをまもる青年でした。(アルマ53：20-21)



ヒラマンは、この2,000人のわかいへいしをひきいて、せんじょうに出て行きました。ヒラマンはへいしたちをむすことよび、へいしたちはヒラマンを父とよびました。(アルマ53：22；56：46)



ヒラマンのむすこたちは、まだいちどもたたかったことがありませんでしたが、おそれませんでした。お母さんたちから、神をしんじるならば、神がかならずたすけてくださると教えられていたからです。(アルマ56：47)



ヒラマンのぐんは、レーマン人となんどもたたかいましたが、このわかものたちは、ヒラマンのごうれいをぜんぶまもらしました。(アルマ57：19-21)



ヒラマンのぐんは、ゆうかんにたたかって、てきをおいかえしました。ヒラマンが見ると、わかものたちは一人のこらずけがをしていましたが、しんだものは一人もいませんでした。(アルマ57：22, 25)



これはきせきです。ヒラマンは、とてもよろこびました。わかものたちが、神への強いしんこうによってまもられたことを知ったからです。(アルマ57：26-27)